

事業所名 医療法人緑樹会グリーンビュー鯉山
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成18年11月28日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 障害者自立支援調査員
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員
B:現職 元看護師
資格・経験 看護師(35年)、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <p>認知症であっても人生の先輩として長年の気持ちで接し、自尊心を傷つけないようプライバシーに配慮している。</p> <p>役割を作ることで、相互に助け合いながら楽しく作業を行われており、自立性を高め、誇りを持った暮らしを支援している。</p> <p>日々の生活をリハビリと捉え、一人ひとりの可能性を追求し、QOLをより高めるよう努めている。</p> <p>入居者は家族として受けとめ、専任の精神を忘れずに、最後まで一日一日を大切に送りながら生活していただくよう努めている。</p> <p>日常の会話の中で入居者の希望や要望をキャッチし、可能な限り取り入れるようになっている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような空間づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>入居者の思いを気兼ねなく表出できるよう、馴染みの職員がじっくり関わることで、常に安心して過ごしていただき、本当の家族との絆を深める手伝いが出来るよう支援している。</p> <p>些細な体調の変化をも見逃さずキャッチできるように、職員が継続して身だしなみからフットケア・爪きり・むくみの確認を行っている。また、居室のシーツ交換は、話しながら行い、入居者との関わり時間を持つようになっている。</p> <p>共有スペースは、家具や観葉植物で落ち着いた空間となっている。また、ミネラル水・空気清浄機を設置し、健康への配慮もしている。</p> <p>接遇マナーは、スーパーバイザーによる勉強会や外部研修でレベルアップを図っており、入居者には尊敬と節度をもって穏やかな態度で接している。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人であることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

J R吉備津駅から徒歩1分の国道沿いに位置し、松並木と田園地帯の季節の移ろいを味わいながら、歴史上由緒ある国宝吉備津神社が眺望できる。吉備の中山は、緑あふれ尾根が鯉の形をしていることから、ホームは「グリーンビュー鯉山」と命名された。

母体法人が運営する協力医療機関を始め、各専門分野の介護保険施設が併設されており、迅速な危機管理システムが整備されている。透析を要する入居者も数名暮らししており、入居者の命と健康を預かるという意識を根底に、日々の生活を支援している。

法人代表者は、職員のプロフェッショナルな構築には厳しく、また、一人間としての育成に重きを置き、公私を問わず心のゆみには一人ひとりにコメントする等、スーパーバイザーと共に職員教育に力を注いでいる。

入居者は何らかの役割を持ち、それを張り合いに出来るよう支援しており、ホーム内はまるで家族のように助け合っており、皆さんゆったりと過ごされており、職員は人生の先輩としての敬意と礼節をもって入居者に接している。

防犯係・静養係を設け、入居者一人ひとりと馴染みの深い関係作りを築いている。家族にも照れて言えない事や小さな身体の変調にも気付けるよう専員で関わり、本当の家族との良さ架け橋となれるよう努めている。

スーパーバイザーのアドバイスを得ながらGBS評価を始めており、運動・知的・感情の諸機能や認知症状を顕察し、評価してカンファレンスに活かし、ケアプランにも反映させている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

特になし

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)

職員は、共有の場とプライベート空間との意識をわきまえ、入居者が安心して過ごせるよう配慮している。

面会時の記録は、一人一枚の用紙へ記入し、事務所で綴るようになっている。

昔の職業(農業・戦地の看護・タイピスト・大工・教師・うどん職人その他)を尊重し、役割作りに活かし、職員が教わるチャンスを日常の中で組み込んでいる。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <p>事故発生時の対応マニュアルに加え、感染予防リスクマネジメント・苦情相談・身体拘束・介護予防のリスクマネジメントなど、各種具体的な手順で記述されており、新採用の職員にも分かりやすく、緊急時にも目の届く場所に置いてある。</p> <p>これからの冬に備え、今月の月間目標、「手洗いうがいを励行しよう」を掲げ、職員が感染の媒体にならないよう徹底している。感染対策委員会では、食中毒の話など専門職を講師に勉強会を開いている。</p> <p>職員は全てが有資格者であり、会議等では相互に専門性を共有し合っている。また、応急処置トレーニングも受けている。</p> <p>運営推進会議では、地域住民・家族・入居者・行政・管理者等で意見を出し合い、地域と施設が共に課題の検討をしている。</p>		